

## 南硫黄島調査で得られた成果 (追加判明分)

南硫黄島で得たサンプルについて、すぐに種名が判明したものはすでに平成 19年 7月 25日に速報版で概要を発表したところですが、その後専門家の同定作業が進み、新たに種名が明らかになった分類群が出てきています。

今回は、その中から、昆虫類、クモ類、ササラダニ類、ミズムシ類について速報いたします。

### 昆虫類

今回の新たな知見として、オガサワラハラナガハナアブ (*Xylota boninensis* Shiraki) を報告します。

この種は、父島、母島をタイプ産地として1963年に記載された種ですが、返還後の記録は見当たらず、絶滅したものと考えられていました。今回南硫黄島の山頂部のトラップで1頭が捕獲され、研究の結果、この種に該当することが明らかになりました。生態などは全く不明で、しかも分類的な位置づけも不明です。

今回の記録が40数年ぶりの再発見となり、今後詳細な系統、形態の研究を進める予定です。

### クモ類

前回の調査では、南硫黄島のクモ類について10科12種が報告されています。今回の調査では、クモ類を目的とした調査は実施していませんが、昆虫調査のうちに得られたクモ類を調べましたので報告します。

今回の調査では5科5属6種が得られました。前回の報告に追加された種はありませんが、シボグモ属の1種は、前回調査ではメスのみ得られ、シボグモとして報告されていました。しかし、今回オスが得られたことで、詳細な比較が可能になり、この種はシボグモ属の新種である可能性が高いことが判明しました。

### ササラダニ類

今回の調査では、土壤動物の調査も実施し、物資の制約のある中で、できる限り多くの地点からサンプルを持ち帰り、ツルグレン装置により抽出を行いました。この結果、土壤動物相については、ササラダニ類が卓越することが特徴であるということがわかりました。南硫黄島のササラダニ類については、前回調査の報告で、19科26種が報告されています(青木, 1983)。今回の調査では、現在のところ26科46種のササラダニが確認されています。うち33種が南硫黄島新記録、うち3種(モモトダニの1種、ヒョウタンイカダニの1種、ヘラゲマルコソダニの1種)は新種と考えられ、またコハツキノワダニの新亜種と考えられるものも得られました。

### ミズムシ亜目 sp.の1種

一般に水生とされるミズムシ類の1種がコル付近の土壤中から発見されました。雲霧林の下部にあたり湿潤な地域ですが、ミズムシ類の陸生種はこれまで世界的にも報告がないようで、非常に注目される存在であると思われます。ちなみに小笠原諸島には淡水性のミズムシは生息しておらず、その起源もいまのところ不明です。今後の調査結果に注目したいと思います。